カトリック高松教区報

2005年4月3日（第106号）
発行所 カトリック高松司教区
広報委員会
〒760-0074
高松市桜町1-8-9
TEL　087-831-6659
FAX　087-833-1484
Email tkcuria@mxi.netwave.or.jp

主が乗っていない船

高松教区長　溝部　脩

マルコの福音書では、逆風に悩まされている弟子たちが水上を歩いてくるイエスを見て、「おびえた」と述べています。彼らは船に乗っています。船は教会を表しています。教会という船に乗っているのに、しかも主イエスを見ておびえるという不思議な現象が起きるのです。これを解く鍵は、この箇所の前にパンの増加の奇跡があったことです。大きな奇跡の後にきっと弟子たちは、自分たちこそイエスの一番弟子として満足していたのでしょう。ところが、イエスは彼らを「強いて船に乗せ」、群集から離れさせます。適当に自己満足に酔っていた弟子たちはきっと不満だったでしょう。しかも、乗った船は嵐にあうのです。もっと悪いことは水の上を歩いて来られた主を見て恐れるのです。イエスが船に乗られると嵐が鎮まります。「それはパンのことを理解せず、心が鈍くなっていたから」慌てふためいたのだとしめくくります。

私たちも適当に満足して教会という船に乗っています。パンの形をとって主イエスが居ることが分からないのです。つよい組織の宗教だと自慢したり、自分がしていることを、どうしても認めて貰わないといけないと力んだりします。私たちの生活を支えているパンや水を理解しないのです。私たちの生活そのものが、一番大切であり、その生活を高めていくことが教会生活です。この生活のパンがわからないで、きれいなパンだけを宣伝していて自己満足に陥ってしまうのです。その時主が不在となります。私たちのパンは十字架につけられた主のからだです。人々のために捧げられたキリストのからだです。外見に貧しいパンの向こうにすばらしい主の栄光が見えるのです。

復活節を祝っています。栄光だけを見ていてはその復活は分かりません。地味に毎日の生活を積み上げること、生活の中に聖体を通しての主イエスを見ること、これが今年聖体の年を生きる最高の勧めです。

ソダーノ枢機卿と会談中の司教

はばたき

◆復活祭を迎えると世はまさに春。寒さがゆるみ暖かい春風が吹くとホッとするのは年のせいか。ヘッセは「老人にとってすばらしいものは暖炉とブルゴーニュの赤ワインと、そして最後におだやかな死だ。でも今ではなく、もう少し後で・・・・」と本音をもらす。

◆おだやかな春の風に神を感じる。イギリスの女流詩人ロセッティは「だれが風を見たのですか／あなたでも私でもない／しかし風は木の葉をゆらしながら通り過ぎて行きます」とうたう。神を見たものはだれもいない。しかし神様のはたらきは、木の葉のゆらぎとして私たちに感じられます。

◆先の教区信徒協役員会で信徒も参加する司牧評議会の設置が合意された。高松教区の復旧作業は溝部司教様を中心にみんなの手で進む。光を求めて・・・・。

素手のまづしさ
復活祭の卵つかむ
静塔

司祭評議会報告

二月八日司祭評議会が開かれ、次のことが報告され、更に決議された。

報告事項

1　青少年委員会より。

一月五日県担当司祭が集まり、第一回青少年委員会を二月一三日開催することを決定した。一三日当日一八名参加し、教区の今後の展望を話し合った。次回は三月二〇日の予定。ケルン大会準備委員会にジュード神父とホルヘ神父が参加する。

2　広報委員会より。

一月三〇日付けで教区報を発行した。事務所改装に伴い、ＯＡフロアと広報デスクを導入する。

3　教区の日について。

九月一九日（月）敬老の日に愛媛県地区で開催する。その要項については教区信徒役員会と諮る。

4　教区事務所改装について。

新事務局長と会計を迎えるにあたり、心機一転をはかるために教区事務所の改装を行う。併せて両師の居室も改装する。

議案

1　青少年委員会の今後の活動について。

ケルン大会に青年を参加させるためにも、他の活動を活性化させるためにも、経済的基盤をつくる必要がある。青少年基金を創設し、それを使用して、青年活動、並びに教会学校活動などの活性化をはかる。

2　司教教書原案の検討。

司教教書は公的なものであり、教区民に伝える大切な書簡である。司教は一人で作成するのではなく、司祭評議会とともに、さらに信徒使徒職協議会に諮って聖霊降臨祭をめどに発行する。原案の第一回検討が今回行われた。修正案を他の司祭たちと諮って評議員が次回に提出する。

3　経済問題評議員の推薦。

教区財政を検討し、健全なものにするために、教会法の規則に従って新しく評議員になれる人を推薦した。

溝部　脩

信徒協は今

信徒協の組織は、教会法には規定されていません。信徒協の組織は、第二バチカン公会議後、その精神を生かそうとの呼びかけに従って作られたやに聞いております。

さて、溝部司教様は次々と改革を進めておられますが、信徒協の組織も、「司牧評議会」という教会法にある組織に変革していきたいと一月二二日の教区信徒協の役員会において話されました。その理由は、『信徒協は活動団体の連絡機関であり、司教とともに教区全体を考える人たちの集まりとは言えない。むしろ教会法に則って司教と共に教区を考える組織に変える必要がある。具体的には、現在の役員会を見直してそれに司祭、修道女を入れて定期的会合を始めるとよい。議題は司祭評議会と連動する。更に信徒の声を吸い上げる機関でもある』とのお考えです。今、信徒協では他の教区から「司牧評議会」の規約を取り寄せて、より良いものになるように研究を進めています。おそらく、約一年程かけて信徒協はフェード・アウトして、新しい組織「司牧評議会」が立ち上がることでしょう。

教区信徒協会長　田井貞良

青少年委員会報告

二〇〇五年二月一三日（日）に溝部司教様を囲んで、四県の司祭とアシスタントの皆さんが、これからの青年活動やケルン大会の準備をするために高松市（桜町教会）で集まりました。最初に溝部司教様が、詩編およびヨハネによる福音書（第一章三五節～四二節）を朗読してくださり、

・キリストが弟子達をしっかりとごらんになったように、私たちも一人一人の青年をしっかりと見つめてこそ、初めて真の出会いとなる。

・行事優先ではいけない。強引に何かを押しつけるのではなく、一人一人の状況を見つめることが大切。

と、お話くださいました。

その後は自由に意見の交換です。一人一人の顔合わせを行いながら、

「いばらの冠」や青年会活動、日曜学校指導の経験など、皆さんのこれまでの様々な取り組みを振り返りました。そして、現在の青年会活動を報告し、これから初めて青年会活動をがんばっていきたい方も含めて、今後の四国の青年会活動の展望について活発に意見を交換しました。とても前向きな話し合いが行われた集まりだったと思います。

次回は三月二〇日（日）に再び高松で集まり、青年の皆さんに主役となって動いていただいてはどうでしょうか、ということで意見が一致しています。

溝部司教様手作りのニョッキ、ジュード神父様のスリランカ風料理などをおいしくいただいた後、「がんばろうね」と気持ちを新たにして、皆さん帰途につかれたのでした。

中島町教会　前田　小百合

四国知牧区創設100周年記念行事収支報告

四国知牧区創設100周年実行委員会
（単位：円）　2005年3月9日現在

支出				収入			
項目	内訳	修正予算	実績	項目	内訳	修正予算	実績
記念大会		**1,747,000**	**1,912,134**	**記念大会**		**713,000**	**871,556**
	案内状費	34,000	39,850		堂内献金	200,000	354,456
	講師費	170,000	167,010		弁当代	323,000	376,000
	典礼関係	240,000	341,150		写真販売	160,000	110,000
	会場関係費	585,000	524,170		うどん販売	30,000	31,100
	アトラクション	100,000	98,945				
	受付関係費	33,000	12,895				
	飲食関係費	385,000	425,145				
	招待者関係費	200,000	218,229				
	講演録印刷･送料	0	84,740				
記念事業		**220,000**	**231,000**	**記念事業**		**0**	**0**
	信仰の道しるべ印刷費	220,000	231,000				
記念誌		**1,530,000**	**1,732,427**	**記念誌**		**300,000**	**400,000**
	印刷費	1,520,000	1,596,000		記念誌販売	300,000	400,000
	封筒代	10,000	31,500				
	発送費他	0	104,927				
委員会		**361,000**	**344,850**	**100周年記念募金**		**3,000,000**	**4,465,337**
	プロジェクト委員会	211,000	116,000		記念募金（注2）	3,000,000	3,820,337
	全体委員会	150,000	228,850		お祝い金	0	645,000
繰越（注1）		**242,000**	**1,516,482**	**雑収入**		**87,000**	**0**
合計		**4,100,000**	**5,736,893**	**合計**		**4,100,000**	**5,736,893**

（注1）①繰越金は記念アルバム印刷･送料･収入等が入っていないため、未確定です。
②確定後の純繰越は、教区本部会計に繰入れします。

（注2）100周年記念募金収入内訳

小教区	1,667,797
修道会･修道院	1,360,000
学校･幼稚園	545,600
医療福祉施設	182,000
個人その他	64,940
計	3,820,337

新教区事務局長紹介

このたび、溝部司教様の要請を受け、高松教区にお世話になることになりました長崎教区の浜口末雄神父です。よろしくお願いいたします。ド・口神父様で有名な長崎県外海の出津教会出身で、五六歳、司祭叙階三〇年になります。

教区事務局長と広報委員会顧問司祭、他二、三の任務を命ぜられています。いずれも経験はありません。その上ただのお人よしで何の取り柄もありません。慣れない環境で、未知の任務が務まるのかとても不安ですが、司祭職をイチからやり直すつもりで始めたいと決意しております。広報活動に関しては、全教区民が一致し、力を合わせて福音宣教に邁進するため、意思疎通の手段として、広報活動に力を注ぎたいという教区長のお考えを実現できるよう努めたいと思います。

ほんとうに、あらゆる面で未知

の世界でお役に立てるのか、まったく自信がありません。同じ信仰に結ばれた兄弟であることだけが頼りです。白紙の状態ではじめたいと思いますので、ご指導、ご援助をお願いいたしまず。

教区事務局長　浜口末雄

教区会計係抱負

皆さんの支えに信頼して、私はこの道を歩みます

みなさん、ご存知のように、旧約聖書のなかにヨナ書があります。そこでは、神から遣わされたヨナが、神から示された地に向かわずに、神から逃れて別の地に向かう。ところが、ヨナの計画はことごとく打ち砕かれ、回りまわって神の計画通りに目的の地に着いてしまう、というお話しが展開します。

私たちの人生にも、このようなことがあります。私もこれまでの短い人生のなかでそのような経験をしました。今回の高松教区の会計係のこともその一つです。司祭に叙階されて一五年目ですが、教会で働いたことはありません。サレジオ会司祭として、これまでは、東京サレジオ学園という児童養護施設で子どもたちと寝食を共にしながら、子どもたちの成長を支える仕事をしてきました。

四国との最初の出会いは、二〇年程前、当時、院長だった現溝部司教に連れられて松山で開かれた研修会に参加したことです。次は四年前の夏休み、上記学園の子どもたちと職員と共に、マイクロバスを運転し、西海海岸から四万十川へ、テントキャンプを転々としながら四国の自然を味わい楽しみました。その後、九州から東京へ戻る途中、飛行機の窓から四国を眺めることはありましたが、もう足を踏み入れることはあるまいと思っていました。まさか三度目の出会いがあり、しかもこのようなことになるとは、まったく予想しなかったことです。これは神様のいたずらでしょうか。

これから数年間、高松教区のために、溝部司教を通して与えられる神からの使命に精いっぱい応えたいと思っています。「どうぞ教えてください」「どうぞ助けてください」「どうぞ祈ってください」。

皆さんの支えに信頼して、私はこの道を歩みます。より多いなる神の祝福と恵みが、この教区を包み、お一人おひとりを、神が喜びと希望で満たしてくださいますように。

教区会計係　濱口秀昭

受洗おめでとうございます

高松教区で、今年の復活祭に受洗された三人の方から喜びのお便りが届きました。

私は神様の恵みを受けて、感謝と喜びでいっぱいです。洗礼を志願したきっかけは、婚約者が教会に通っていましたので、しだいに私自身もキリスト教に興味を抱くようになったということでした。信仰を持つことで、自分の生き方を見つめ直し、これからの私の生涯に方向性が与えられたと思います。

洗礼志願式にて

五月には桜町教会で結婚式を挙げ、そして東京での生活が始まる予定です。慌ただしく忙しさに流されがちな毎日、新しい環境で困難に遭遇することもきっとあると思います。しかし、神様はともにいてくださることを感じたとき、とても心強いことでしょう。キリストに従う道を夫婦ともに支え合いながら歩んでいきたいと思います。

教会の皆様に、あたたかく迎え入れていただき、支えていただきました。また、たくさんの方が私のために祈ってくださって感謝しております。本当にありがとうございました。

桜町教会　長尾陽子

二〇〇一年一一月、私はそれまでの人生の中で大切な日を迎えていました。松山教会での結婚式です。

信者である夫にとっては、小さい頃から慣れ親しんだ教会。一方の私は、その厳かな雰囲気の中、かなり緊張していました。しかし、親族や友人、それに夫の亡くなったお父さんお母さんと親しかった方々も温かく祝福してくださって、徐々にその緊張感も、言葉では言い表せないような清々しい感情に変わっていました。これまで味わったことのない感動。今思えば、神様の愛を実感していた時だったのでは。

寺尾さんと陸君

その後、去年子供を授かったことがわかってから、改めて信仰について深く考えるようになりました。はじめは何をどうすべきなのか、と不安もありましたが、求道者として神父様のお話しを聞くようになって、次第にそれは解消されていきました。一番大切なのは神様を信じること。ルイス神父様からのアドバイスで、なにか難しく感じていたことも素直に考えるようになりました。

二〇〇五年、復活祭三月二六日、松山教会で洗礼を授かることになり、私はまた新しい、記念すべき日を迎えます。

松山教会　寺尾純子

私が洗礼を受ける気持になったきっかけというのは、十数年前友人に借りた「三浦綾子」の「塩狩峠」で、読み進むうちに感動で涙が止まらなかった。私もこの主人公のように、清い心と、厚い信仰心が持てたらと、聖書を読み始めたが聖書は難解で、教会に行けば糸口が開けるかと、その年のクリスマスの深夜ミサに参加、神父様の説教を聞いているうちに、自分のこの一年間の罪が許されるような気分になり、来年も又次の年もと思いつつ十数年が過ぎた。私がこの本で受けた心の変化を、後輩職員にも感じて欲しいと読むことを薦めたのである。そのうち、その後輩職員から、「聖書勉強会」の話を聞き、教会を訪ねた。参加者はシスターや私のような気持の一般の方で、神父様の話からは、その時代背景や、聖書の内容の詳しい解説にとても興味を覚え、約二年の勉強期間が過ぎる頃、洗礼を受けたいという強い気持になった。復活祭には念願の洗礼を受けることになるが、「よきキリスト者」と呼ばれるよう努力していきたいと思っている。

宮地さん

中島町教会　宮地啓仁

各地区だより

日本26聖人巡礼ウォーク

それは、大聖年も終わりに近付いた二〇〇〇年末、「二六聖人の歩いた道をたどってみたい」という何気ない言葉から始まりました。一二月三〇日には有志三人による下見をかねた第零回巡礼が行われ、これはいけるとの確信を得た三人は数週間後のミサ後、発起人会を開催し、このプロジェクトが本格的に始動することとなったのです。

記念すべき第一回は二〇〇一年三月二四日、桜町教会にて深堀司教様の祝福を受けたメンバーは、京都「フランシスコの家」を祈りのうちに出発し、西坂まで一〇年に及ぶであろう巡礼を開始したのでした。

隔月に一回一〇～一五kmずつを刻んでいくこの巡礼ウォーク、前回まで二五回、一泊二日の行程を含めるとのべ三〇日間の旅を続け、広島県三原市までやってきました。

第２５回巡礼三原教会にて

途中、地図読みから反省会と称した宴会まで面倒を見てくれたＹ・Ｏ氏、岡山での記念巡礼でミサを司式してくださった佐々木神父の二人の突然の死、ナビゲーターとして活躍いただいたＨ・Ｏ氏の転勤等もありましたが、全長九〇〇㎞の内三六〇㎞ほどを歩んできました。

メンバーそれぞれがこの巡礼を通していただいている恵みに感謝しつつ、残りの道程を歩き続けていきます。（巡礼の記録は桜町教会のホームページをご覧下さい。本号が発行される時には二六回目を終えている予定です。）

桜町教会　長谷川聖

釜ケ崎での野宿者支援活動

徳島教会では、ここ数年一月頃、福祉委員と青年会が協働して大阪府西成区周辺へホームレスの支援活動に出掛けています。そしてキリスト教協友会が行っている夜廻り活動に参加します。

行く前は大変だなあとか、おっくうだなあとかいう気持ちが先行しがちですが、現場に行き釜ケ崎の歴史と現状、野宿者への接し方などを学び、極寒の路上に出て色々なおっちゃん達に接していると、出掛ける前の消極的な気持ちはたちまち吹き消され、掻き立てられるような積極的な気持ちに変わるから不思議です。中には感動体験を味わう若者も多くいます。その感動体験の殆どは非常にキリスト教的な核心に触れるものです。例えば私の場合には、靴も履いていない衰弱して凍えている人が、提供されたおにぎりを半分残して「まだ食べていない人に」と差し返されたときに、やもめの献金の福音が頭をよぎり、その人にぴったり当てはまり、後々思い返しているうちにキリストが伝えたかった意味を悟らされ、その人を世の光と思わずにはいられなくなったという体験があります。また、活動の後分かち合いをしますが、他の人が体験したことを心から共有できたり、新しい見方、新しい発見ができたりして、得るものが何倍にもなったりします。

支援活動に参加して

イエス様の行かれるところには群衆がこぞってついてきたという福音がありますが、キリストの手足となって働いたという充実感を感じられるこのような活動は人々を巻き込んでいくのではないかと思います。そして、こんな活動の中から若者の召命ということが出てくる可能性もあるのではないかと思います。青少年委員会の事業計画の中で、このような体験活動を企画・実践して行かれることを期待しています。

徳島教会　松田栄作

私と教会

ミサ進行の過程で、典礼と聖歌が変わり解らなかったミサにも少し慣れてきた。ロザリオの祈りに、仏教の読経の雰囲気があって、若い頃は線香臭く嫌だったが、年齢の所為か今では心地よく聞こえるし、意味も少しずつ解ってきた。教会に来る人たちには、ウクライナ・ポーランド・中南米からの人も居るが、きれいな日本語には驚かされる。この人達の祈りは、如何にも日常生活に溶け込んだ姿に見える。年何回かの合同ミサには、フィリッピン人女性や、子供たちが来て狭い教会も家族的雰囲気に溢れる。国民性なのか大変明るい気質だ。電話で話す彼女達の日本語は、美しくさえある。マリア様についての本を読んで、信仰の意味がわかった。ある神父様の言葉に「神の救いの計画でマリア様は特別な位置」にあるとあったが、本当にそうだと思う。

中村教会　夕部　静

ビデガイン神父様とケディー君

伊予三島教会の番犬ケディー君のお話です。

この犬は、もう随分前から教会にいます。

ビデガイン神父様は、サッカーがお好きですが、ケディー君もサッカーが大好きです。

時々、一人と一匹は、サッカーを楽しんでいます。

先日、神父様が黙想会のため、教会を留守にすることになり、私がケディー君を預かりました。

「この犬は放しても大丈夫。絶対に逃げないから。」と神父様がケディー君を放しました。

しかし、ケディー君は一目散にどこかへ消えていきました。

「オー、こんなことは、今までになかったことです。」と神父様。神父様はそのまま黙想会へ出発。

その日の夕方、教会の近所の知人Kさんから「ケディーは私の家にいるよ」と電話がありました。

彼（？）は、一足先にいつも預かってもらっているKさんの所へ向かっていたのでした。

伊予三島教会　浜口雅春

ケディー君です

発足三一年目を迎える教会学校教師会』

『これからの教区を担う若者の育成』を目的にして発足し今年で三一年目を迎えるに至った。メンバー構成は、多種多様で年齢幅も広い。

毎年八月に、県下持ち回りで『教師研修会』を開催している。リーダー達の質の向上のための研修と、各県の情報交換を兼ねている。

この研修会の第一〇回の講師として溝部司教様にお越しいただいた。又、福岡のサン・スルピス大神学校の白浜神父様には『典礼』について四年間に渡り学んだ。他には、教会学校の実践指導として、シスター景山、シスター藤田などに講師を依頼し、この三〇年間で多くのことを学ぶ機会を得ている。

故・山下神父様が始められた『家庭と召命の日』も意志を引き継ぎ、現在に至っている。この集まりは『教区の幼児から青年達が毎年一回集う』という、良い研修会になっている。

最後に、次への知牧百年の一年目が明けた今年、『教会学校教師会』の本質およびあり方が問われる時期になって来ていると思う。私たち、教会学校教師会が『幼児から高校生』と関わる機会を作り、その中で成長した子ども達をどのように青年部へ手渡して行くかということが、課題だと認識している。

教会学校教師会会長　久万美子

青年会コーナー

今回は今年度の青年会の活動の予定と、高知県の青年の活動についてかいてみたいと思います。

四国全体としては3月20、21日に桜町教会で四県の交流会があります。8月にはワールドユースデーケルン大会や、岡山との合同キャンプを予定しています。まだ参加したことのない方もぜひ参加してください。また、高知県では主に中島町と江ノ口教会と合同で活動をし、毎月第2土曜日に食事会をして交流を深めています。6月に去年からはじめた青年ミサを江ノ口教会で行います。今年はどうなるかわかりませんがミサ曲に「世界にひとつだけの花」を歌ったりしました。これからは県内の他の教会とも交流ができたらと思っています。

高知県中島町教会青年会　横田知加

各県コーナー

高知県の巻

タイガースタウン安芸教会通信

～～土曜学校～～

四〇年程前、幼稚園卒園生（未信者）の小学生を集めて土曜学校を始めた。教材としてプロテスタントの教会学校用に作られたもので、最初の頁には色のつかない絵があり、二頁目は聖書の物語、たとえ話があり、下段に語句の解説が載せてあり、最後には、きょうの聖書に対する問題があり、その後に答えを書くところを空けてあるようになっている。最初の絵にクレヨンで色を塗らせ、聖書を二・三人で読ませ、これについてお話、説明をし、問題の解答を書かせる。この聖書の勉強に約三十分をかけ、次に学校の勉強として、算数・国語を教える。今週習った所の復習、次週の予習をし、ガリ版で作ったテストを行う。その勉強の時間は約一時間である。最後のレクレーションは三〇分から一時間屋内ゲームや屋外でソフト・ドッジボール・縄跳びなどをする。各学期毎に一回日曜をハイキングの日と決め、弁当を持って追跡ハイキングを行った。子供が多いときには、五人づつ位の班を編成団体行動をとらせた。目的地までに五ケ所の関所を設け問題用紙を隠し解答を提出させた。問題には、五つの植物を採集するとか、ゴミ籠の前後にゴミや空き缶を捨て置き、それらを掃除してくるかどうか、最後にボーイ・スカウトのやっているスキムゲーム（地面に一六の品物をバラバラに置き、一分間見せた後、布をかぶせて、どれだけ多くの品物を書くことが出来るかを競う）をして、弁当にする。全員で教会に帰ったあとは報告書を出させ、童謡を歌ったりして解散した。二〇年ほど続いた教会学校も、塾・クラブ活動・少子化などで子供が集まらず次第に行われなくなった。

土曜学校の子どもたち

安芸教会　近藤孝義

四万十川のほとりの中村教会通信

～～国際色豊かな教会～～

高知県の西部にある中村教会は、窪川町以西の市町村が範囲で、香川県に匹敵する広さを持つ。信徒は日本人・フィリピン人・アメリカ人と、総勢一六〇名を抱えるが、圧倒的にフィリピン人が多く、その子供たちが六〇名居ることが、この教会の特色とも言える。日本家屋の一間の聖堂には入りきれず、復活祭・聖霊降臨祭には、多くの人がキッチンにまで溢れる。パーティーともなると、美味しいフィリピン料理を食べながら、日本語・英語・タガログ語が飛び交う。実に国際色豊かで楽しい一時となる。これからの大きな課題としては、子供たちをキリスト者として教育し、初聖体に向けて家庭と教会が指導していくことが大きな目標となる。普段は少ない参加者も神父様と昼食を共にすることで和気あいあいの集いとなるが、毎月第四日曜日を英語のミサとしてをり、この日ばかりは賑やかなミサとなる。『お礼』一昨年豪雨災害の温かいご支援感謝します。

中村教会
主なるキリスト像

中村教会　山中憲子

皿鉢と鳴子踊りの中島町教会通信

～～今年の黙想会～～

二月六日ミサの後突然の電話に、私たちの教会は声を失った。四旬節第三の主日二七日には、溝部司教様の黙想会が予定されていたのだが、突然ローマに呼ばれて、来られなくなったとの知らせであった。早速評議会を招集して対策を話し合った。そこで取り上げられたのは、ジェード神父様が「洗礼と聖体について」話をした後、分かち合いをすることになった。当日、二〇数項目の黙想内容を書いた用紙が準備され、神父様の話から各自が感じたことをメモし、一〇名位にグループ分けをし午前中は「ご聖体といえば、私達の心（頭）に何が浮かんでくるか」昼食を挟んで午後は「主の晩餐・ミサ・交わりを深める為にこれからの私の日常生活について」分かち合いを続けた。分かち合いの後は再び聖堂に集まって各グループは次のような発表を行った。

黙想指導中のジュード師

黙想会第3グループ分かち合い

ご聖体というよりも神様との関わりは日常生活ではなかなか難しい。より身近なものとして神様に対する時間をきちんと持つこと、例えば五分でも一〇分でも聖書を読むとか、お祈りをする。洗礼志願者を交えて、信仰を見つめて生活する。ご聖体をいただくことで新しくなり、勇気を貰えると思う。人との交わりを持つ、其の根底には愛がある。ご聖体によって愛を感じる感謝の気持を持ち、一時だけでも自身を強めて貰える。ご聖体をいただくことは最高の幸せである。などであった。

発表を行った用紙は祭壇に献じ、聖体降福式の中で燃やし灰に返して聖体顕示をし、今日の黙想会を終わった。

中島町教会　高橋　翠

マリッジエンカウンター

「私が愛したようにお互いに愛し合いなさい」

マリッジエンカウンターとは、夫婦の結婚生活を通して互いに向き合い高めあって、より豊かな結婚生活を送ろうとする夫婦の歩みです。この歩みに参加していただくためには、二泊三日のマリッジエンカウンター・ウィークエンドを体験していただくことが必要です。

マリッジエンカウンター・ウィークエンドとは、様々な関わりの基礎となっている夫婦の関わりを深めていくための方法を体験的に身につける二泊三日のプログラムです。

これは自分と配偶者との関係、自分達と神との関係、自分達と周りの人々との関係を深く見つめる機会です。過去を振り返るのではなく、二人の将来を見つめるひとときです。結婚生活をより豊かなものにしたいと思う夫婦であれば、結婚年数に関係なく誰でも参加できるよう企画されています。又、人々との関わりを深めたいと思っている司祭、修道者も参加できます。二〇〇五年関西地域のウィークエンド開催予定は次の通りです。

つどい後の親睦

＊宝塚黙想の家
１回目＝４／29（金）～５／１（日）
２回目＝11／18（金）～20（日）
＊福山暁の星研修センター
９／23（金）～25（日）
連絡先
＊桜町教会＝立浪敏男・すみ子
☎０８７（８７４）８８９２
＊丸亀教会＝須山二郎・京子
☎０８７７（２４）２７４０
＊徳島教会＝弘田克一・純子
☎０８８６（５２）１４９８
＊松山教会＝尾崎寿一・富江
☎０８９（９５７）７８３９
＊新居浜教会＝鈴木 強・静枝
☎０８９６（７４）８７５３

私たちは皆、一人でもたくさんの人々にウィークエンドに参加してほしいと願っています。そこで素晴らしい、ぜひ人々に伝えたいものを見出したからです。

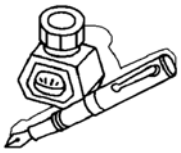
松山教会　尾崎寿一・富江

司　教　日　程

４月１日（金）～８日（金）
日本殉教者列福申請ローマ巡礼
12日（火）司祭評議会
17日（日）松山教会
22日（金）祭壇奉仕者選任式（神学校）
５月３日（火）津和野巡礼、講師
６日（金）愛光学園教職員研修会、講師
７日（土）ボーイスカウト総会
８日（日）三本松教会ルルド祭
11日（水）マルチン病院研修会、講師
12日（木）常任司教委員会
15日（日）高知県合同堅信式
18日（水）～20日（金）
男子修道会総会、講師
22日（日）大分教区宮崎地区集会、殉教者列福についての講演
29日（日）丸亀教会50周年
30日（月）～６月２日（木）
東京神学校集中講義、常任司教委員会
６月６日（月）～７日（火）
ノートルダム修道会総会
11日（土）丸亀聖母幼稚園50周年
12日（日）司祭叙階式
13日（月）～17日（金）
司教総会
19日（日）カトリック医師会研修会
21日（火）司祭評議会
22日（水）カトリック福祉全国大会
25日（土）愛光幼稚園研修会
26日（日）四国修女連研修会
29日（水）六甲学院教職員研修会

編集後記

教区広報委員会が結成され、最初の広報誌（第一〇五号）発行準備にかかったとき、私の不注意から入院ということになり、編集作業から離脱し、司教様・広報委員の皆様はじめ多くの方々に大変ご迷惑をかけたことを、この紙面をお借りしてお詫び申し上げます。今回も、原稿依頼をして、締切まで日時がなく原稿づくりが大変であったと思います。しかし、広報委員の方々、信者の皆様のご協力により何とか約束の期日にできあがったことを、皆様とともに喜びたいと思います。皆様ありがとうございました。

なお、今回から、新しい企画として「各県コーナー」を設け、紙面一ページを各県にお任せし、今回は高知県に担当していただきました。次回は徳島県の予定です。

（和泉文男）